

日本道徳性発達実践学会第19回広島大会 第36回道徳性発達研究会大会
第21回 SAME(学校と道徳教育)研究会

ご挨拶

ここ広島の地で日本道徳性発達実践学会第19回広島大会・第36回道徳性発達研究会大会が催されることをお喜び申し上げます。委員長としてお世話を頂いている安田女子大学教授竹田敏彦先生には、早い時期からモラルジレンマ授業の普及にご尽力頂いております。1999年には広島県教育研修センター副所長として、「モラルジレンマ授業とその展開」を企画し、その講師として私を招聘頂きました一方で、モラルジレンマ授業研究会を継続して企画・運営され、モラルジレンマ教材などを県内の先生方と開発されて来られました。また先生は2008年に広島大学教授越智 貢先生と「SAME(学校と道徳教育)研究会」を立ち上げられ、現在も会を主宰されています。「SAME研究会」は学校現場の道徳教育に強い関心をもつ広島大学や広島県内の現場の先生方が多数参加されていると窺っています。今回の合同での「日本道徳性発達実践学会」の開催は、実践を大切に考える私たちの学会が掲げる本来の目的を達成する上で意義ある試みと大変期待しているところです。

ところでモラルジレンマ授業と広島県との関わりは古く、1991年までさかのぼります。当時神辺町立(現福山市立)道上小学校では文部省道徳教育研究指定を受け、問題解決型道徳に造詣の深い藤田学校長から要請を受け、私たちとの間で研究交流が始まりました。その成果を表す第5回広島県小学校道徳研究大会は県内外から実に多くの参観者を集めた熱気あふれる大会でしたが、モラルジレンマ授業は大いに注目されました。研究は先生の退職後も継続され、私たちは授業研究会に参加する一方で道上小学校の先生方にも道徳性発達研究会に来て頂くなど長年にわたって交流を深めたことを思い出します。当時道上小学校にお勤めだった理事の古蔵雅子先生とは30年来の研究仲間ということになります。

さて、今回、大会テーマ「いじめ問題を道徳教育から考える～傍観者を仲裁者に～」のもとに、基調講演を会員の戸田有一教授に、また、シンポジウム「いじめ問題を道徳教育から考える～傍観者を仲裁者に～」を竹田先生、越智先生を中心に計画して頂いています。シンポジストを交えた討論から新たないじめの取り組みの方策が提案されることを期待しています。これまでこのいじめ問題には私ども学会としても大きな関心を持って取り組んできました。学会誌「道徳性発達研究、2012」においても第7巻第1号で特集「いじめ問題への対応」を組み、シンポジウム登壇の金網知征先生には、「いじめ問題への対応に関する一考察―道徳教育の視点より―」を、会員の京江光之先生は「マルチモード・アプローチによる『いじめ防止プログラム』の理念と内容」を、野本玲子先生には「いじめる必要のない元気な心の種まき・いじめることができない道徳性の発達促進」を執筆頂きました。合せて議論の参考にして頂ければ幸いです。

この他にも日程の中に道徳科の模擬授業実践と研究協議、個人研究発表等が計画されています。暑さ厳しい時節でございますが、多忙な中で参会を頂きました皆さま一人一人にとって、この大会が実り多い研究大会になることを願っています。

2019年7月28日

日本道徳性発達実践学会理事長 荒木紀幸